



平成 30 年 3 月 27 日

各 位

上場会社名 瀧上工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 瀧上 晶 義
コード番号 5 9 1 8
上場取引所 東証・名証（第 2 部）
問合せ先責任者 取締役執行役員管理本部長 瀧上定隆
(電話番号 0569 - 89 - 2101)

「瀧上グループ中期経営計画」に関するお知らせ

当社グループは 2019 年 3 月期を初年度とし、2021 年 3 月期までの 3 か年を対象とする中期経営計画（82 期～84 期）を策定しましたので、その概要をお知らせいたします。

1. 中期経営計画策定における課題

前中期経営計画の総括

前中期経営計画（79 期～81 期）は、グループ関連会社を完全子会社化した後の初めての計画であり、グループ会社のシナジー効果を発揮し、新設橋梁工事では厳しい受注競争の中で安定受注を図ること、保全事業では大規模修繕工事への取組みを始めること、鉄骨鉄構事業では目標とする大型電力案件を受注目標とすることなどを基本方針としました。数値目標は、最終年度において売上高 175 億円、営業利益率 2.5%と設定し、取り組んでまいりました。

その結果、初年度 79 期において売上高 191 億円、営業利益 18 億円（9.4%）となり早くも目標を達成しましたが、2 年目に起こりました贈賄等の事件の影響により、最終年度は売上高 148 億円、営業利益 6.5 億円（4.3%）となる見込みです。営業利益率については目標を達成しますが、売上高については目標数値を下回る予想となっております。

事業環境と課題

最近、我が国の製造業において品質不正が次々と明らかになり、また、建設業では安全管理体制の不備による事故が多く発生しました。当社グループにおきましても、信用回復のためには、コンプライアンスや内部統制の改善、経営層と現場の差を埋めることが課題と考えられます。

当社グループの主力事業である新設橋梁は、物流や都市機能を再編するための高速道路 4 車線化などにより、この 3 か年の発注量は横ばいか漸減で推移すると想定しています。しかし、厳しい受注競争が続くため、安定した受注を確保することが課題です。

一方、橋梁保全事業は高速道路の老朽化に対する床版取り替えや、想定される東南海地震や首都圏直下地震などに対する耐震補強など大規模保全工事が本格化しています。また、2013 年を社会資本メンテナンス元年として始まった 5 年ごとの橋梁点検が一巡し、次のステップとして長寿命化対策工事が進むものと思われれます。このように拡大が予想される橋梁保全工事に対応していくことが課題となります。

また、鉄骨事業は、発電所等のエネルギー関連施設、好調な企業業績を背景とした高層オフィスビルの需要が、中期計画の最終年度に開催される東京オリンピック・パラリンピック以降も当面続くと予想されます。このような高い需要に対し、期待に応えていくことが課題となります。

さらに、海外における新興国市場は世界経済の影響を受けるものの基本的には高い成長率が続き、インフラ整備に関する需要は旺盛であると思われます。当社グループも、これらの需要に対応していくことが課題です。

以上の取組み課題に対する最も大きなリスクは人材不足です。我が国の労働者人口は既に減少し始めており、働き方改革により女性と高齢者の労働参加率を高める取組みがなされています。しかし、絶対的な人口不足や労働者人口自体の高齢化が進んでいます。このため、ロボットやAIの活用が1つの対策として、その技術が急速に発展しております。当社グループにおきましても、働き方改革による人材確保やロボット・IT技術の活用促進が課題です。

2. 基本方針と事業計画

基本方針

本中期経営計画の基本を「再生と創造」とし、コンプライアンスを経営の基礎として固め、「長年にわたるゆるぎない品質の確かさで顧客との信頼関係を築く」という企業理念のもとに信頼を再生してまいります。

新設橋梁事業は一旦低下したシェアを再生し、橋梁保全事業は本中期経営計画以降の拡大も見据え、新たな橋梁エンジニアリング事業として創造していきます。鉄骨事業におきましては、東京オリンピック・パラリンピックを背景として需要旺盛な今が再生の最大チャンスであると考え、当社の主力事業として再生していきます。さらに、「入札だけに頼らない企業体を作る」という多角化の概念のもと不動産事業や海外事業を進めていきます。

当社は2015年度に創業120年、2017年度に会社創立80年を迎えましたが、長年の信用と柔軟な経営方針で幾多の困難を乗り越えてきました。社会が大きく変わる転換期におきましても、働き方改革や最新IT技術の活用を進め、グループ企業の持続的な成長を目指していきます。

新設橋梁事業

- ・技術提案力と積算精度の向上に努め、新設橋梁市場において一定のシェア確保を目指します。
- ・現場配置技術者の増員および最適配置により、応札機会を増やします。
- ・老朽した橋梁生産設備の更新を進め、生産性向上を図ります。

橋梁保全事業

- ・増員により確実な施工体制を作り、期毎に事業規模の拡大を目指します。
- ・目標とする大規模修繕、更新工事の受注を目指します。

鉄骨鉄構事業

- ・早期に年間生産量1万5千トンの体制を構築し、当社の鋼構造物事業における売上高の約30%を担う事業に拡大を図ります。
- ・当社第二工場の再整備や溶接ロボット等の設備投資を実施し、生産性を向上させます。

海外・新規事業

- ・ベトナム現地法人とフィリピン駐在員事務所を活用することで、ODA 橋梁案件またはローカル橋梁案件の受注を目指します。
- ・アスファルト添加材の海外販売は、フィリピンでの認証取得を完了させ販売増加を図ります。また、その他の国への展開を模索します。

- ・仮橋リースは営業を強化し、稼働率の向上を図っていきます。また、その他の開発商品につきましても営業強化により拡販するとともに、施工現場に役立つ新規商品を開発していきます。

不動産事業及び資金運用

- ・不動産賃貸においては、必要な修繕と賃貸収入確保対策を実施します。
- ・当社グループ全体の資金は一体として運用し、適切な利益を確保します。

材料販売事業

- ・当社グループの情報を最大限活用して、新規顧客の開拓及び既存顧客への販売増加を積極的に進め、売上拡大を図ります。

人材採用及び働き方改革

- ・積極的に人材（新卒、キャリア）の採用を進め、本中期計画にて10%程度の増員を図ります。
- ・従業員の意見を聞きながら様々な問題を包括的に解決していくため、働き方改革の特別チームを発足させ、従業員の意欲向上による生産性向上と人材確保を図っていきます。
- ・従前の組織を改編し「情報化推進室」を発足させ、全社的なIT関連投資及びIT活用による生産性向上を進めていきます。

3. 数値目標（最終年度）

2021年3月期におきまして、瀧上グループの連結業績目標は次のとおりとします。

売上高	190億円
営業利益	9億円（4.7%）

以 上